

No.	ご意見	町の考え
1	信濃町が高齢者に対してどうしたいのかをもう少し具体的に示すべきでないか。	高齢化が進み、介護事業所や行政だけではこれからの高齢化社会に対応しきれない部分もあると思いますので、地域の方達の協力による支え合いの地域づくりを進め、高齢者の方々が住み慣れた町で健康で自分らしい生活を過ごせるようなより良い町づくりを目指していきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。（第3章 計画の基本理念等 以降に掲載。計画(案)は修正しないが、今後の取組において検討または参考とさせていただきます。）
2	介護保険の導入により住民の考え方がどのように変わったか。介護サービスを利用することがよくなったかどうか。地域包括ケアや介護予防の考え方がよいのかどうか。これらについての住民説明はどうなっているのか。	介護保険導入前は、在宅で過ごされる方が多く、子どもや家族が行うものとされていた親の介護ですが、高齢化が進むにつれ、介護を必要とする高齢者の増加や核家族化の進行、介護による離職が社会問題となりました。こうした中、家族の負担を軽減し、介護を社会全体で支えることを目的に、2000年に創設されたものが介護保険制度です。介護保険導入後は住み慣れた町で健康に暮らしていけるよう介護サービスを利用しながら、本人も生き生きとした生活を充実させ、家族も介護の負担が解消されるようになりました。地域包括ケアや介護予防については、町の広報等でお知らせしています。町の要介護認定率が全国や長野県に比べ低いのは、介護予防事業等に積極的に参加していたり、ご自身で介護予防に取り組んでいる証だと思います。（質問への回答のみ）
3	地域包括支援センターが、役場の中にあることは特殊なことでないか。	地域包括支援センターは、介護保険法において市町村が直営で実施するほか、社会福祉法人等に運営を委託している場合もあります。高齢者の皆様の生活を支える役割を果たす総合機関として、当町においても平成18年4月から信濃町役場内に「地域包括支援センター」が設置されています。長野県内においては、大きな市を除き町村役場内に設置されているところがほとんどです。（質問への回答のみ）
4	町として、アルツハイマー病の進行を抑制する新しい治療薬(レカネマブ)についてどうしていくか。	新薬(レカネマブ)治療については、かかりつけ医、専門外来、専門医療機関（認知症疾患医療センター）等における検査と診断を経て治療となりますので、その動向等情報収集を行いながら必要時連携してまいります。（第5章 認知症施策の推進へ追記）